

臨床医からみた POCT

2023 年に入り AI チャットサービスの登場などシンギュラリティは間近に迫っていると感じさせるほどに、テクノロジーの進歩の急激さはますます大きくなってきている。医療分野においても同様に、AI などをはじめとした次世代医療やさまざまなプロダクトが多く登場している。このような時代に私達はその医療プロダクトをさらに使いこなし、よりよいアウトカムにつなげていく必要がある。そのなかで、近年臨床の現場でも認知度が高まり、トレンドとなっている POCT (point of care testing) に焦点を当てて特集を企画した。

POCT は、「ベッドサイドあるいは患者の傍らでできる」という簡便性、現場で結果が出るという即時性という点で非常に有用である。その一方で、簡便であるがゆえに十分な吟味がなされないままオーダーされた結果、検査結果に振り回されたり、高コストになってしまった、などといった問題も生じている。

そこで本特集では、まず総論として、POCT にはどのようなものがあり、検査を施行・運用していくうえでどのような点に注意すべきか、ご解説いただいた。各論では、日常診療でよく遭遇する診療場面から、①どのような POCT 検査を用いることが可能か、②その検査結果から何がわかり、どのような方針決定につながるか、③検査の施行・検査結果の解釈にあたっての注意点をご解説いただいた。POCT は同じ迅速検査でもキットによって特性が異なり、また通常の中央検査室や外注検査センターでの大型分析装置を用いた検査とも違った点がある。そういった点についても比較しながら解説していただいた。さらに実践編として、実際に POCT をどのように診療戦略に用いているかを、外来や病棟、在宅診療や災害医療の場面を切り取って、ご紹介いただいた。

POCTにおいても、使用可能な検査機器が増え、また急激な進歩があった。身近なところでは、新型コロナウイルス感染症に対するPCR検査などで実感しやすいと思う。この変化の大きな時期において、私達はキカイに使われるのではなくヒトがキカイを使い倒すためにもその特性をしっかりと知り使うことが求められてきている。

本特集を通じて、「臨床医からみたPOCTの今」を知っていただき、日常診療のツールの1つとして上手に活用していただければ幸いである。



大杉 泰弘

藤田医科大学連携地域医療学